



## ●色彩教材ギャラリートーク

3月1日開催の「第1回色彩教材ギャラリートーク」の色彩教材募集は、2/10日現在で8件の募集がありました。現時点でのコンテンツです。

### <色彩教材作品・研究>

- 中国芸術大学における色彩指導のあり方
- 色のふしぎ：三原色から沢山の色を作る
- 現代イラスト作品を対象とした色・配色の解説書「配色で生み出す物語」
- パソコンデザイン用 PDCS246 表色系
- 虹色混色キューブ
- 半世紀を経た我孫子ビレッジの建築外装色彩設計
- 色彩学の各種理論に基づく色彩教材「配色かるた」
- ゲーテの開発した色彩教材『光学論考 (Beyträge zur Optik)』(1791年)

### <特別セッション>

- 絵本で学ぶ色彩(仮)

このギャラリートークを通して、学術研究発表会とは一味違った色彩の楽しみ方を共有できたらと考えております。

2/21(祝)までオリジナルの色彩教材を募集していますので、ぜひご応募してください。  
(吉澤陽介 主査より:029)

## ●ギャラリートークに参加しよう

3月1日に、東京の日本橋のDICビルで色彩教材研究会のイベントとして「ギャラリートーク」という初めての形式のイベントが開催される。

形式や内容は不明ながら、足が悪く、外出できないため、自分なりに解釈して、代理の方々にお願いして2題参加することにした。

1題は「半世紀を経た我孫子ビレッジ」と題した、50年前に外装色彩計画をした東急建設の大団地の現在の状況を見てきて、結果をまとめたパワーポイントの紹介で、建設時の外装色彩が、色を変えることなく、見事に再現されている状況の報告を渡邊幹事に依頼。

2題目は色彩教材をパソコンで制作するために、独自の、246色の色見本集を作成して、手元に置いて教材作成に使用してきた便利さをお伝えするために、この色見本集の紹介を田森幹事にお願いした。このデータは学会の「色彩データライブラリ」から入手できる。

ギャラリートークに参加される方々は、カメラとUSBメモリーを持参して、このイベントの成果を持ち帰って、教材制作の一助になさるよう、お勧めしたい。

将来、「色彩データライブラリ」中心のイベント開催もお願いしたい。  
(永田泰弘)

## ●No.427・こぼれ話2の補足訂正

No.427掲載の「366日ヨーロッパの伝統色図鑑こぼれ話2」のビスキュイについて、以下のように、補足訂正を掲載します。(永田)

ビスキュイ(Biscuit)は「2度(bis)」「焼いた(cuit)」を意味する言葉で、元々は乾パンのような保存食を指し、船旅や軍隊用の携帯食として作られていました。

16世紀、メディチ家から伝わったとされるフィンガービスケット「ビスキュイ・アラ・キュイエール」がフランスに広まりました。アンリ2世に嫁いだカトリーヌ・ド・メディシスと共にフランス入りした菓子職人が作りはじめたといわれています。

本文でも少し触れている「ビスキュイ・ド・ランス」は、これをバラ色に染めたような焼き菓子で、シャンパンに浸していただくビスキュイです。シャンパーニュ地方の都市ランスで誕生しました。1690年頃、「パンを焼いたあとの余熱を利用、保存がきく、シャンパンに合う」、この3つを満たすお菓子というアイデアから生まれたそうです。

1825年に、ルイ15世の孫のシャルル10世から王室御用達の許可を得ている、王家にも愛されたランスの銘菓です。

(塚本由紀江)